



子ども食堂の勉強会が 長崎大学で開催

昨年十二月三日、長崎大学文教スイ
ホールで、あるイベントが開催されし
た。「広がれ、こども食堂の輪！全」ツ
アービン長崎」です。近年話題になつ
る子ども食堂を実際に運営しているや
関心を持つ人が一堂に会した交流会、
その中心となつてゐる長崎子ども「堂
ネットワークの代表を長崎大学教育一部
の小西祐馬准教授が務めています。」話

「子ども食堂はここ数年広がりを見て
います。立ち上げ当初は貧困の状況ある子どもに食事を提供しようという動
でしたら、今では貧困ということに「ら
しささまざまな子どもを迎えてお
食事、遊び、勉強、相談などの要素を加
わっています。つまり広くいえば『ど
もの居場所づくり』が目指されてい
です。皆さん自己資金や寄付で運営して
おり、長崎県内にも十五カ所以上で一
ベントは情報交換の場になりました」
した。やつてみたいという人も多く、イ

小西先生の専門は子どもの貧困問題で
す。関連著書も七冊あり、新聞、ニレ
ビ、ラジオに数多く登場しています。
「二〇一五年五月にはNHKの九州ラジ
オの報道番組で二週連続スタジオ出で
ました。九州でこの問題を専門とする研
究者がおらず声をかけられたのだと聞い
ます。いろいろな方が見られたよう、
この頃から九州でもせきを切つたよ。関
心が高まり始めました。九州の皆さは
大変熱心です。土地柄でしょうか」。
そもそも、先生はなぜ子どもの貧困問
題で

「きっかけは小学生の頃、クラスに今芝
な子どもがいたことです。同じ班の上の
子で、ハジメられて、ました。それから

『何かおかしい、間違っている』と済的な問題が気になり始めて、高校生になつてからは生活保護や貧困に関する本を読んで少しずつこのテーマに興味を深めていきました。北海道大学に入つて貧困問題の研究をしている指導教官の下に付き、生活保護世帯の聞き取り調査一路上生活者の調査も行いました。そのうち縁があつて専門書を出す機会をいただき、今に至ります。長崎大学に着任後、長崎市内で保育所を利用する保護者へのアンケート調査を行いました。

質問項目が興味深いですね。例えば、「食後に果物を食べますか?」。

「果物は高いのです。食習慣は経済状況と深く関連します。しかしこのアンケートには限界がありました。質問項目が多

子どもの貧困問題を
地域に根ざして
考えていきたい



小西祐馬 準教授 Yuma KONISHI
北海道出身。北海道大学教育学部、同大学大
学院修士課程・博士後期課程を経て、二〇〇八
年より長崎大学教育学部准教授。専門は児童
福祉。「子どもの貧困」について研究している。著
書に「貧困と保育」(編著、かもがわ出版)、「子
どもの貧困」「貧困と学力」、「子どもの貧困白

「広がれ、子ども食堂の輪!全国ツアーin長崎」が行われた文教スカイホールは、ほぼ満席近く埋まりました。場内はこれから子ども食堂を始めたいという方、何か手伝いたいという調理師グループ、行政関係者など多くが詰め掛けました。



先生の著書の一例。特に2016年に出版した「貧困と保育」は保育から貧困を考える初めての切り口で、保育業界で話題になりました。

め、不登校問題を考える際、底では貧困とつながっているかもしれないという視点が重要です。教育費の無償化だけではなく、教育環境を整えるなど、根本的な施策が必要です」。

子どもの可能性は無限大、とはいえない実態ですね。

研究成果を実践につなげる
フットワークの良さも大切

研究結果を実践につなげる
フットワークの良さも大切

A photograph of a man with dark hair and glasses, wearing a dark blazer over a yellow shirt, speaking into a microphone. He is standing in front of a whiteboard with large black Japanese characters. The text on the whiteboard appears to be "ハリーポッター町" (HARRY POTTER town).



「広がれ、こども食堂の輪!全国ツアーin長崎」が行われた文教スカイホールは、ほぼ満席近く埋まりました。場内はこれから子ども食堂を始めたいという方、何か手伝いたいという調理師グループ、行政関係者など多くが詰め掛けました。

得が高くとも借金がある、医療費がかかるなど、所得が少なくても貯金があるなど、ケースはそれそれで、一人一人の生活を丁寧に拾っていくことが肝要です。デリケートな問題ですから気を遣いながら聞き取りをしますが、母子家庭のお母さんのお話を聞いていると、本当によくやつてているなあというのが実感です。子どもを大学に行かせるなんて夢のまた夢といいます。そもそも貧困家庭の子どもは机も本もなく、勉強する意味が実感できなこともあります。努力する習慣さえ奪われるのが貧困の本質です。虐待やいじ